



神奈川県南支部第24回定期大会続報！ 組織拡大&アンケート・署名の推進に全力を

神奈川県南支部は、昨日発行した2017年度の推進ニュースNo.①で報告した第24回定期大会で当面する以下の課題に全分会が全力をあげることを確認しました。

第1は、現在全国でとりくまれている建交労の組合員拡大月間に総結集し、月間期間中に全分会が成果を上げるために具体的な運動を展開することです。なかでも建交労の組織化の弱点ともいえる既存の分会職場で仲間を増やすこと。いわゆる「職場の多数派」を追求する運動に各分会の総力をあげて集中することです。

第2は、県南支部の2018年春闘アンケートの目標である1000人集約達成に向けて大規模な運動を展開することです。県南支部の春闘アンケートの中心はトラック職場の要求アンケートと一般・パート労働者向けの「はたらくみんなの要求アンケート」の2種類です。**集約の節目は、第1次が11月8日までに200人分、第2次は12月20日までに500人分、第3次は来年1月17日までに750人分、最終集約は2月末までに1000人分です。**この目標は、支部組合員数の約10倍です。職場の未加入組合員や友人・知人など一人ひとりの組合員が個々のつながりを生かし切ることで、この取組みがあって初めて達成できる目標ですし、それが組織拡大の芽にもなります。

第3は、「安倍9条改憲NO！全国統一署名（組合員一人当たり10筆の集約目標）」「被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」「過労死と職場の差別の根絶を求める署名」「11.8中央行動で国交省と厚労省に提出する請願書名」の当面する4つの重点署名を中心とする署名活動の展開です。このとりくみも春闘アンケートと同様に一部幹部のとりくみでは前進させることはできません。全組合員の力を発揮して、それぞれの目標を達成させましょう。

このなかで、「11.8中央行動で国交省と厚労省に提出する請願書名」については、期限が迫っていますので、早急に取り組みを広げて集約し、集約した署名用紙は県南支部事務所に11月6日(月)までの必着で届けてください。署名用紙がない場合は添付したファイルをダウンロードして活用してください。

以下の表は、神奈川県南支部が10月29日までに集約している春闘アンケートと各種署名の到達状況ですが、分会ごとの取り組みには格差があり、いまだ未報告も分会もあります。今後は分会ごとの集約状況についても報告することを検討します。

2017年度建交労神奈川県南支部春闘アンケートと署名の到達点

2018年春闘アンケート			各種署名						
トラック職場	一般パート	春闘アンケート合計	トラック個人署名	トラック団体署名	ヒパクシャが求める核廃絶署名	9条改悪反対3000万署名	過労死と差別根絶を求める署名	11.8中央行動厚労省署名	11.8中央行動国交省署名
17	7	24	149		256	21	92	31	44



被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、 核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、 すべての国に求めます。



人類は今、破滅への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。

1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の原子爆弾は、一瞬に広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。

沈黙を強いられていた被爆者が、被爆から11年後の1956年8月に長崎に集まり、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）を結成しました。そこで「自らを救い、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い、世界に向けて「ふたたび被爆者をつくるな」と訴えつづけてきました。被爆者の心からの叫びです。

しかし、地球上では今なお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。核兵器を脅迫に使ったり、新たな核兵器を開発する動きもあります。現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。

人類は、生物兵器、化学兵器について、使用、開発、生産、保有を条約、議定書などで禁じて来ました。それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることに何のためらいが必要でしょうか。被爆者は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望しています。あなたとあなたの家族、すべての人びとを絶対に被爆者にしてはなりません。あなたの署名が、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残すと確信します。あなたの署名を心から訴えます。

2016年4月

よびかけ被爆者代表：坪井直、谷口稜暉、岩佐幹三（以上、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）・代表委員）、田中熙巳（日本被団協・事務局長）、郭貴勲（韓国原爆被害者協会・名誉会長）、向井司（北米原爆被害者の会・会長）、森田隆（ブラジル被爆者平和協会・会長）、サーロー・セツコ（カナダ在住）、山下泰昭（メキシコ在住）

私は被爆者の訴えに賛同して署名します

名前	住所	募金

ご記入いただいたお名前や住所など個人情報は、この要請目的以外には使用しません。みなさんの署名は、毎年の国連総会に提出いたします。

【取扱団体】

原水爆禁止日本協議会

〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-4 ☎03-5842-6031